

■歌川国芳 激変の時代に対応して、猫絵・謎解き絵ほかユニークな浮世絵を描き続け、いわゆる“横浜絵”にも先鞭。

うたがわくによし

昌平饗始・1797＝ 江戸日本橋で紺屋の家に生れた。

アヲカ船来航始1803＝ 6歳：この頃、北尾長政の絵本を見て、人物を描く。

げノ報復・1806＝ 9歳：

フートン号事件 1808＝11歳：鐘直が剣を揚げる図を描き、父の友人だった初世歌川豊国に認められ、

ゴロブニ拿捕 1811＝14歳：この頃、初世歌川豊国に入門。

浮世床・・・1813＝16歳：この頃刊行の*絵師の評判記に早くもその名が登場。

黒住教・・・1814＝17歳：現存する最初の作品「御無事忠心蔵」の表紙絵。以降、錦絵や読本・合巻の挿絵が増える。

・・・1815＝18歳：「三世中村歌右衛門の春藤次良右衛門」刊行。

伊能測量終・1816＝19歳：山東京伝作の合巻の挿絵を共同制作。

杉田玄白没・1817＝20歳：合巻「娘歌嘉留多」の表紙絵に署名。

水野忠成老中1818＝21歳：愛猫家で多数の猫に囲まれながら制作、

伊能図完成・1821＝24歳：「三世尾上菊五郎の・・・」刊行。

英船浦賀来航1822＝25歳：この頃、生涯の友、梅屋鶴寿との交友が始まる。

シボム来日・1823＝26歳：「七世市川団十郎の・・・」刊行。

シボム鳴滝塾1824＝27歳：初め、同門の歌川国貞に押され気味であったが、

日本外史・・・1827＝30歳：この頃、*「通俗水滸伝豪傑百八人の一箇」の錦絵シリーズが好評を博し、一躍“武者絵の国芳”の名声を得るに至った。

シボム事件・1828＝31歳：「風俗女水滸伝」刊行。

シボム追放・1829＝32歳：「忠心蔵義士両国橋引取図」刊行。

富籤流行・・・1830＝33歳：絵本「一勇画譜」初編刊行。

富籤三十六景1831＝34歳：この頃、_清新な洋風陰影法を駆使した風景版画を多数発表、その力量と高い芸術性を示す優品が多い。

鼠小僧磔・・・1832＝35歳：「御免琉球人行列附」刊行。

天保大飢饉始1833＝36歳：成田山に「火消千組の図」絵馬額を奉納。

・・・1836＝39歳：曲亭馬琴の70の賀宴に出席。_この頃の「鼠よけの猫」以降、没するまで、無数の猫絵を描いている。

大塩平八郎乱1837＝40歳：この頃、結婚。_河鍋曉斎が入門。

適塾ワゴン・1838＝41歳：「百人一首之内」刊行か。

勅進帳初演・1840＝43歳：国芳の役のある狂言が演じられる。

天保改革弾圧1842＝45歳：合巻「朧月猫の草紙」刊行。_艶本取締があり、罰金をとられるも、

順天堂始・・・1843＝46歳：魚類を中心とする動植物画なども手がけ、_「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」など、天保の改革などに取材する風刺画、諧謔味あふれる戯画を描き、

天保改革終・1844＝47歳：「二十四孝童子鑑」刊行。

阿部正弘首座1845＝48歳：この前後、_役者似顔を落書きに似せて釘頭描風に描いた「荷宝蔵壁のむだ書」「白面笑壁のむだ書」、

孝明天皇・・・1846＝49歳：大胆な図柄の大判三枚統の錦絵も多く、役者絵の禁令を破りながら“恐怖の魅”の無いことが咎められ、あるいは、_蘭画に影響され、人物の身体で半身像をつくる連作「人かたまって人になる」などがある。

北斎没・・・1849＝52歳：落合芳幾が入門。

国定忠治磔・1850＝53歳：「きたない名医難病療治」が風刺画と判断され、発禁・絶版となる。月岡芳年が入門。猫絵の代表作東海道五十三次もじった「其のまま地口猫飼好五十三疋」、

尊徳報徳論・1851＝54歳：合巻「源氏雲弦月」初編刊行。

万次郎帰国・1852＝55歳：「誠忠義士肖像」「甲越川中島大合戦」刊行。

ペリー来航・1853＝56歳：*「浮世又平名画奇特」が風刺画と判断され、お咎めとなるなどしたが、結局一度も投獄にならない才覚を示す。_両国柳橋の料理屋で飼葉屋佐七主催の書画会が開かれ、アクション・ペインティングのようにして描く。この年の評判記に豊国にかほ(似顔)国芳むしや(武者)広重めいしよ(名所)の順で掲載される。

開国開港・・・1854＝57歳：「八世市川団十郎の死絵」刊行。

安政大地震・1855＝58歳：「和漢準源氏」刊行開始。_浅草観音開帳に際して傑作「一つ家の図」絵馬額を奉納。

松下村塾・・・1856＝59歳：妻が死去、後妻を娶る。「国芳雑画集」初編刊行。

蕃書調所・・・1857＝60歳：読本「絵本豊臣勲功記」刊行。

五ヶ国条約・1858＝61歳：「竜宮城田原藤太郎秀郷に三種の土産を贈」刊行。

桜田門外変・1860＝63歳：横浜開港に際し「横浜本町之図」を描き、_“横浜絵”の先鞭をつけたが、

遣欧使節・・・1861＝64歳：*日頃の大酒による中風が進行し、江戸新和泉町の自宅で没した。近年、豊かなアイデアと斬新な構図法により奇想を發揮した異色作家として評価が高まっている。